

国際協同組合年(IYC)を受け継ぐ取組み



「国際協同組合デー」パンフ



「第3回国連防災世界会議」
展示パネル

国連が2012年を国際協同組合年(IYC)と定めたことを受け、日本では各協同組合の全国組織が参考し、「2012国際協同組合年全国実行委員会」を設立。協同組合の価値や現代社会で果たしている役割等について、広く国民に認知されるよう取り組みました。

2013年からは、「国際協同組合年記念協同組合全国協議会」(略称:IYC記念全国協議会)として、取組みを継続しています。

協同組合活動の認知度の向上

国際協同組合デー記念中央集会

世界の協同組合の連合組織である国際協同組合同盟(ICA)は、世界の協同組合に携わる人々が平和とより良い生活を目指して協同組合運動の前進を誓い合う日として、毎年7月第一土曜日を「国際協同組合デー」と定めています。

これに合わせ、2014年7月に記念中央集会を開催しました。「協同組合はすべての人々のための持続可能な発展を実現します(Co-operative enterprises achieve sustainable development for all)」をテーマに、約400名の協同組合関係者等参加のもと、東京大学の武田晴人教授の講演や、福島県在住者を中心としたダンスユニットによる“福島の今”を表現する公演が行われました。

2015年のテーマは、「協同組合を選ぼう、平等を選ぼう(Choose co-operative, choose equality)」です。

「第3回国連防災世界会議」に出展

協同組合の価値や役割を広く社会に発信することを目

的に、2015年3月14日から18日までの5日間、宮城県仙台市で開催された「第3回国連防災世界会議」のパブリック・フォーラムにブースを出展し、協同組合による東日本大震災からの復旧・復興活動や地域に根差した防災・減災活動などを紹介するパネル展示等を行いました。

来場者には、加盟24団体の震災復興への取組みをまとめて紹介した事例集や、防災を分かりやすく学べる小冊子などを使って説明し、海外からの来場者には展示パネル等を英訳した冊子で、日本の協同組合の取組みを紹介しました。

展示ブースの来場者は1,300名近くに上り、多くの方から協同組合の活動に励ましの言葉をいただく一方で、協同組合をよくご存じない方も多くいらっしゃいました。今後とも、協同組合間で連携し、協同組合の価値や地域社会で果たしている役割を、広く知つていただく取組みを続けてまいります。



出展ブース

日本の協同組合

協同組合は、民主主義を基礎とした事業運営や活動を通じて、経済的・社会的な側面で、人々の生活の向上とその解決を大きく助ける役割を担っています。安全・安心で豊かな食品と生活に役立つ日用品の生産および提供。地域の豊かな暮らしと経済活動のために寄与する金融事業。総合的な暮らしの保障のための共済事業。健康な日常生活を営むための医療・福祉事業のほか、広く地域社会に貢献するためのさまざまな社会的取組み

などがそれらの一例となります。

そして、地震や風水害などによる大規模災害が発生した際にも、各協同組合が物資の支援、ボランティアの派遣、募金活動など、さまざまな取組みを展開することにより、被災地域の復興支援に大きな役割を果たしてきました。

協同組合は、私たちの暮らしのなかで、あらゆる分野において事業を営み、日々の生活を支えている身近な存在です。